

川西まちなか美術館

参加募集

開催期間は29年2月19日(日)から3月5日(日)まで。「ひととまちを彩るアート」をコンセプトに、阪急・能勢電鉄「川西能勢口」駅周辺が美術館に変わります。現在活躍する芸術作家に加え、若手やこれからの活躍が期待されるアーティストの作品が、駅周辺の公共施設などに展示されるこのイベント。応募資格はアート作品制作など作家活動をしている人(学生可)。募集期間は10月5日(水)から11月13日(日)まで。

きんたくんギャラリー作品
 阪急・能勢電鉄「川西能勢口」駅周辺の商業施設などに展示するアート作品を募集。審査の上、

展示する40作品を決定します。申し込みは、川西まちなか美術館実行委員会事務局に備え付けの申込書(同事務局ホームページからダウンロード可)に必要事項を書き、郵送かファクス、メールで、〒666-0014・小戸1-5-2 KSKビル5階の同事務局へ。

ライブペイントフェスタ
 当日、パフォーマンス中に審査を行い、優れたパフォーマンスをした人には、賞を授与します。実施日は29年2月26日(日)午後1時~4時(1人1時間)。定員6人。先着順。申し込みは、電話かファクス、メールで同事務局へ。



秋イベント まち美ウォールアート 10月15日(日)
 10月15日午前10時半~午後0時半(雨天の場合は16日(日))、阪急川西駐輪センターの壁面に描く「ウォールアート」の参加者を募集します。募集期間は10月12日(木)まで。対象は幼児から小学生。定員20人程度。先着順。申し込みは、電話かファクスで同事務局へ。

問合せ 川西まちなか美術館実行委員会事務局
 ☎(744)7112 ☎(744)7113 ✉kawanishi-kyougikai@eos.ocn.ne.jp

駅周辺が「食べ歩き・飲み歩きのまち」に きんたくんバル12 10月15日(土)~19日(水)

今回は初の5日間開催!

問合せ きんたくんバル実行委員会 ☎(744)7112

52店舗が参加。チケットは4枚つづり、2,800円(前売り)各店舗、趣向を凝らしたお得なメニューを用意

10月15日~19日、阪急・能勢電鉄「川西能勢口」駅周辺で「きんたくんバル」を開催。今回は、52店舗が参加し、「食べ歩き・飲み歩きのまち」を盛り上げます。各店舗で趣向を凝らしたお得な特別メニューを用意しており、バルチケットと交換できます。チケットは1冊2,800円(4枚つづり)で、各参加店などで販売中(当日は1枚750円で販売)。

また、インターネットや電話で事前予約するとチケットを前売り価格で当日購入できますので、ご利用ください。チケットが残った場合も、10月20日(木)~23日(日)の「あとバル」期間中に、1枚700円の金券として使えます。詳しくはきんたくんバル実行委員会へ。



きんたくんバルバージョン

チケットに付いているアンケートに答えると景品が当たる!

前売り券は参加店舗の他、
 A 川西能勢口駅構内アズナス B アステ川西びゅう広場 C 中心市街地活性化協議会 D (株)パルティ川西などで販売。



スタンプラリーを同時開催、すてきな賞品が当たる かわにしどらごんバル 10月6日(水)~9日(土)

問合せ かわにしどらごんバル実行委員会 ☎(792)7716

55店舗が参加。チケットは10枚つづり、3,000円(前売り)能勢電沿線の5つの駅周辺でお得なバルメニューを用意

10月6日~9日、能勢電鉄「鼓滝」「多田」「平野」「畦野」「山下」駅の周辺で「かわにしどらごんバル」を開催します。55店舗が参加して、能勢電鉄沿線の各駅周辺の店舗が活気のあるまちにしようと、趣向を凝らしたバルメニューを用意。バルチケットと交換できます。チケットは1冊3,000円(10枚つづり)で、各参加店や能勢電鉄「平野」「山下」駅などで販売中(当日は1冊3,500円で販売)。

チケットが残った場合も、10月10日(日)~14日(木)の「あとバル」期間中に、1枚300円の金券として使えます。

また、「スタンプラリー」を同時開催し、シールを集めて応募すると、抽選ですてきな賞品が当たります。詳しくは、能勢電鉄(株)内のかわにしどらごんバル実行委員会へ。



どらごんバルキャラクター



味覚の秋、旬の食材が多く食べ物がおいしい季節。毎年この頃に、「川西能勢口」駅や能勢電鉄沿線の駅周辺で「きんたくんバル」や「かわにしどらごんバル」が開催されます。駅周辺が「食べ歩き・飲み歩きのまち」となり、みので、エリアマップを片手に目当てのお店を訪れてみてはいかがでしょうか。バルには食事やスイーツなどを提供する、たくさん

川西市長の あんばい話

思いを形にするサポート
 誰もが笑顔になるまちづくり

の店舗が参加していますが、私も20歳代で起業し、洋菓子店を立ち上げた経験があります。当時、私は「一人に喜んでもらえる仕事がいい」「どうすれば世の中に貢献できるのか」と考え、あえて勤めていた会社を飛び出しました。しかし、新しく何か挑戦することは、簡単なことではありません。振り返れば、失敗も数多くあります。ただ、その分、相手に喜んでもらえた時には大きな励みになりました。最近、起業しようという女性や育児と仕事を両立させようという女性が増えているようです。実際に起業したり、再就職する中には困難なこともあると思います。市や商工会などでは、頑張る人を支援するメニューを用意しています。皆さんの思いを形にするサポートをし、誰もが笑顔になるまちにしていきたいと思えます。

大塩民生

あんばい話をまちかわにし